

むかいしま荘移転開設

～開かれた施設運営を目指して～

グループホームむかいしま荘 大月 多恵



▲むかいしま荘外観

2018年1月1日、公益財団法人JKA様から競輪補助金の交付を受け、新たなグループホーム「むかいしま荘」を向島町宇山地区に開設することができました。

今までは民間のアパートを活用し、入居者のペースを大切にされた支援をしてきました。しかし、段差のある設備では保護者の方から「将来的な入居者の高齢化や障害の重度化に対して不安がある」などの声が寄せられていました。

この度新築した「むかいしま荘」は、1階と2階それぞれが5名定員のグループホームとなっており、各階に個室が5部屋、食堂、居間、台所、浴室が1か所ずつあります。介助

スペースのある浴室や、車椅子対応のトイレ、エレベーターなどを備えることで、今後の入居者の身体状況に対応できる設備となっています。また、定員を5名ずつにすることで、より家庭に近い雰囲気の中で、安心して生活できるよう配慮しています。

「むかいしま荘」の特色は「中・重度障害の方が、住み慣れた地域での暮らしを継続できること」です。入居者一人一人が自分の持っている力を発揮しながら、自分らしい生活を送ることを目標に、本人の思いを丁寧に聞き取り支援に生かします。また、ご家族や地域の方との交流を大切にしながら、「むかいしま荘がこの地域にあって良かった」と言っていただけるような、開かれた施設運営を目指していきます。



▲地域の方を招き見学会

事業名：平成29年度 障害者グループホームの建築補助事業
事業内容：障害者グループホームの建築 定員10名
鉄骨造2階建て1棟(304.18㎡)
補助対象事業費総額：89,658,360円
JKA補助金額：43,189,000円
施設所在地：広島県尾道市向島町字定志和6215番6
工事完了年月日：平成29年12月21日

この事業を進めるにあたって、下記の団体・個人から物品寄付を賜りました。
深く感謝の意を表します。
向島地区手をつなぐ親の会様 むかいしま作業所保護者会様 高橋智子様

新たな発達支援棟を始動

～発達障害に特化した支援が可能に～

尾道サンホーム 太田 祐美

尾道サンホームは移転した発達支援センターあいの建物を活用し、昨年10月から新たな活動の場として「発達支援棟」を設けました。

発達支援棟は、自閉症を含む発達障害の方に特化した支援をする専門の場所です。



▲利用者アセスメントの様子



上から順番に数字の箱に入っている課題をします (ワークシステム)

◀スケジュール

この取り組みを始めるにあたって広島県発達支援センターの地域支援マネジャーへ協力を依頼しました。利用者さんの特性を実際にみてもらい、改修工事の打ち合わせにもアドバイスをいただきました。

取り組みを始めて5か月がたちました。現在は入所者7名、通所者2名の方々が利用しています。職員の専門性を身につけるため4人の専任職員の配置をしています。主な取り組みは利用者さんの特性に合わせたスケジュールの利用や、ワークシステムの導入です。環境や支援方法を見直すことで利用者の皆さんも見通しがもて、分かりやすい1日を過ごすことができます。

今後も専門家と連携し、より豊かな生活が送れるよう取り組んでいきます。

※ワークシステムはひとつの場面でいくつかの活動を提示するときに活用するもので、活動の内容とその終わりなどを視覚的に提示します。

国際交流事業で留学生を受け入れ

～日本を見本として学ぶ～

星の里小規模多機能事業所 山下 清文

昨年10月から星の里小規模多機能事業所では、国際交流事業の一環として台湾人留学生の黄さんのアルバイトを受け入れています。

朝夕の送迎に同行し、利用者の乗降介助や歩行介助をしています。他にもトイレ誘導やお茶出し、洗い物など利用者対応だけでなく通常業務もこなしています。

家族や利用者とかかわる時だけでなく、どんな時でも笑顔の黄さん。その何事にも前向きな黄さんの姿勢は職員にも良い刺激となっています。



▲車いすの準備をする黄さん(左)

大家好、我叫黄功儀、

台湾来的留学生、今年23歳。現在边讀語言學校一边在星の里打工。来日本留学的原因是我想學日本介護方面的知識跟技術、大學是就讀老人服務專業相關科系、因此想更進一步學習、将来把所學帶回台湾。

はじめまして。私はファン チャオイと申します。

台湾から参りました。今年23歳になりました。日本語学校で学びながら星の里でアルバイトをしています。今回日本に留学してきた理由は、日本語をきちんと勉強して会話能力を高めたいからです。それと、日本の福祉や高齢者介護は台湾より進んでいるので、日本を見本として学びたいです。

シリーズ
福祉のしごと
救護施設編

みつぎ清風園では何らかの精神疾患がある利用者の人数が、全体の8割を超えています。そのため、今年度から専任の精神保健福祉士を配置し、医療機関とのパイプ役となり、精神症状の安定維持に努めています。

みつぎ清風園②
利用者さんの精神的な負担を減らす 八津川 史帆



Q1 どんな取り組みをしていますか

精神科通院・入退院支援です。受診した時に自覚症状を伝えるのが苦手な利用者さんのフォローや、主治医へ情報提供を行い、指示された内容を職員へ伝えます。必要に応じて精神科病院と連携し入退院の調整をします。

他にも個別面談・苦情対応・地域支援をしています。利用者さんからの悩み事や要望を受け、関係職員と共に問題解決に向けた調整を行います。今後、地域移行された利用者さんの相談支援も実施予定です。

◀面談中の様子です

Q2 仕事をするうえで大切にしていることはなんですか

基本的なことかもしれませんが「受容と共感」です。悩みを打ち明けることは勇気があることです。相手の話に耳を傾け、気持ちを受け止めて理解しようとする姿勢は、信頼関係を築くうえで欠かせないと思います。自ら相談をするのが苦手な利用者さんも多くおられるので、気軽に声をかけられるような、「ゆとりある雰囲気」を出せるのが理想です。

今後も医療機関や施設内の他職種と連携しながら、利用者さんが不安な気持ちをため込んでしまう前に、精神的負担が軽減できるよう努めていきたいと思っています。



▲ご意見箱に投稿

新商品「オレンジチョコレート」誕生

～客船だけで味わえるお菓子～

尾道さつき作業所 岡田 朋樹

尾道さつき作業所では尾道産の柑橘を使用したチョコレート関連商品を製造しています。甘夏の果肉をセミドライにしてチョコレートでコーティングした「オレンジチョコレート」を開発しました。

試作段階から関係者と打ち合わせを重ね、客船「guntû (ガンツウ)」の運航のタイミングで商品化に成功し、客室用お菓子として採用されました。「guntû」は株式会社せとうちクルーズ(株式会社せとうちホールディングスのグループ会社)が運航する客船です。「せとうちに浮かぶ小さな宿」をコンセプトにした宿泊型の客船で2017年10月17日に就航しました。

大量生産ができない商品のため、現在は「guntû」の客室だけで味わうことができます。今後はONOMICHI U2の店頭でも販売できるように生産性の向上を目指しています。



「客船 guntû」
Photo-Tetsuya Ito Courtesy of Setouchi Cruise

尾道あるこうカーで全国最優秀賞を受賞

～全国老人福祉施設研究会議で発表～

デイサービスセンターしまの風 薄墨 邦明



▲最優秀賞

昨年10月18日、全国老人福祉施設研究会議が高知県で開催されました。「尾道あるこうカーの取り組みについて～歩いてつなぐ人と人との縁むすび～」と題した発表が、最優秀賞に選ばれました。

この発表は、2016年1月から新高山地区で実施しているノルディックウォークの介護予防活動をまとめたものです。

審査員からは「地域包括ケアの深化において、自助互助の土壌となる住民主体の介護予防の組織の育成が大きな課題として暗中模索する中、可能性を見いだせる発表だった」と評価をいただきました。

今後も住民の皆様のニーズに応え、地域福祉の発展に向けて、様々な取り組みにチャレンジしたいと思います。

地域包括支援センターの役割とは

～地域で支えあう仕組みをつくる～

向島地域包括支援センター
則清 和美

地域の方に「どこで人生の最期を迎えたいですか?」と尋ねると、多くの方が「自宅」を選び、「ピンピンコロリがええなあ」と答えます。地域包括支援センターは要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく生きられるように、地域包括ケアシステムの構築を進めています。

地域包括ケアシステムの構築には、その地域に関わる人たちの協力が必要です。医療機関や介護サービス施設の職員と会議の場を持ち、地域に必要な資源や自分たちができることは何かを検討しています。しかし、専門職だけで地域を支えることはできません。地域に住む人々と手を取り合っていくことが必要です。事例を通じて、関係する地域の方や民生児童委員を招き、警察や消防、行政職員など各関係機関を交え改善策の検討と地域課題の把握をしています。

また、社会福祉協議会と協同し認知症の正しい理解の推進に向けて、向島内にオレンジカフェを2か所立ち上げました。2017年11月には向島町の兼吉地区で外出時の事故を防ぐことを目的とした『おのみち見守り訓練』を実施し、認知症の方への声掛け方法を体験してもらいました。地域で互いに見守り組織を作ることを目標に、地域ごとの特色を発見・再確認する活動を進めています。

向こう三軒両隣の精神で互いを気づかい、支えあう仕組みを作るには多くの時間と取り組みを必要とします。これからも地域包括支援センターは地域のつなぎ役を担っていきます。



▲多職種が集まって連携会議



法人設立35周年を記念して式典

昨年12月2日、尾道さつき会が法人設立35周年を迎えたことを記念し式典を開催しました。平谷尾道市長を来賓にお迎えし、理事・監事・評議員のほか職員多数が出席しました。

式典では、田邊理事(写真)の児童デイサービス スッカSukhaの立ち上げなど法人に対する数多くの支援に対し、感謝状が贈られました。また、おのみち元気塾講師の東風上薫先生が内閣府の「エイジレス章」を受章されたことを紹介しました。

介護職員(パート職員)

募集中

※年齢不問、詳細については下記にお問い合わせください。

担当者:総務部 宮地
(TEL)0848-37-7272

・尾道さつき会ホームページのNEWS一覧をクリック。
最新求人情報が確認いただけます。



寄付者一覧

(2017年9月～2017年12月・順不同・敬称略)

水戸川賢造 山根智恵子 高橋照子 坂宗久敷 土山純朗
村上美鈴 三島一郎 寺岡博人 横田郁子 寺本一太



編集後記

家族でウルトラマンショーへ出かけました。我が家ではいつもウルトラマン役をする息子ですが、目の前の怪獣を怖がりずっと親に抱きついていて一般市民役に徹していました。(M.O)